

教えて！宮原先生

今月のテーマ
ちくのう症について

—ちくのう症の症状—

風邪や鼻炎をおこした後で、以下の症状が続きませんか？



- 黄色や青色の鼻水がでたり、鼻水にイヤな匂いがある



- 頭が重い



虫歯じゃないのに…

- 歯が痛い、または、浮いた感じがする



どうしてかしら？

- 頬や目の奥が痛い

「ちくのう症」は、誰もがかりやすい身近な病気ですが、慢性化すると、集中力の低下や頭痛、顔面の痛みなどをひきおこす厄介な病気です。発症の仕組みや原因、治療方法を学び、対処の参考にしてください。

今月は「ちくのう症」のお話です。
上記のような症状に悩んではいませんか？
ほうっておくと、嗅覚などにも影響します。
しっかりと治しましょう。



みやはら耳鼻咽喉科
みやはら ちかのう
宮原 孝和先生

ほうっておくと、どうなるの？

ちくのう症をそのままにしていると、様々な困った症状があらわれます。

鼻が詰まって、息がしにくく感じられ、口が開いたままになりやすい。

ノドに鼻水が流れるため、咳払いがおこる。

発熱、前頭部の痛みなど。



頭痛や、頭の重たい感じが続くことで集中力が低下する。

小さな子どもは自分で訴えられない為、機嫌が悪くなることもある。

慢性化することがある。

慢性化に注意!!

ちくのう症には「急性」と「慢性」があります。

- 急性の場合 適切な治療を行えば、通常1ヶ月くらいで症状は治まります。
 - 慢性の場合 手術などによる治療が必要な場合もあります。
- 慢性化すると、たえずこれらの症状が続くため、健やかな生活が送れなくなり、とくに子どもは、集中力や学力の低下への影響が心配されます。

鼻水くらいは、軽くお掃除、しっかりと治すのが大切です。治療の方法と予防について、次の頁で紹介しましょう。



慢性化しやすい理由

副鼻腔は細い管で鼻とつながっています。

カゼ等の炎症で管がはれて塞がり、鼻水が出なくなり、副鼻腔にたまります。

鼻水のバイ菌が副鼻腔内で繁殖して膿をもち、急性副鼻腔炎になります。

再びカゼをひくなどして炎症が進むと、さらに管が塞がって鼻水や膿がたまり、炎症が拡大し、慢性化します。

ちくのう症はこうしておきます

きっかけは、鼻カゼや鼻炎です。

- ① 鼻カゼや鼻炎にかかってウイルスやバイ菌が鼻に入り、くしゃみや鼻水、鼻粘膜の炎症等がおこる。
- ② 炎症が鼻の奥の「副鼻腔」の粘膜に広がる。
- ③ 炎症で鼻が詰まり、副鼻腔に鼻水がたまる。
- ④ 鼻水のバイ菌が副鼻腔の中で繁殖して膿をもち、ちくのう症になる。



匂いのある鼻水や頭が重いといたた、イヤな症状が続く「ちくのう症」。なぜ、ひきおこされるのか、発症のメカニズムを説明しましょう。

原因は、鼻カゼやアレルギー性鼻炎等の、誰もがかりやすい病気です。まれに、虫歯などのバイ菌の感染でもおこります。

「ちくのう症」の特徴



この部分が「副鼻腔」です

ちくのう症は、別名「副鼻腔炎」とも呼ばれます。

鼻の構造により、頬や目の奥など、鼻とは関係のない部分に痛みがでます。

鼻は、一般に「鼻」と呼ばれる顔の正面に突き出た部分と、副鼻腔と呼ばれる顔の骨の中の空洞でできています。副鼻腔の面積は、顔の1/3を占め、ちくのう症はこの部分に炎症がおきると言います。そのため目の上や頬などの、顔面の広い部分に痛みがでるほか、熱がでたりします。



ちくのう症の予防について

「ちくのう症」の予防は「鼻カゼかな?」と思ったら早めに耳鼻科を受診することです。

規則正しい生活と栄養バランスのよい食事を心がけ、適度な運動で体を鍛え、抵抗力をつけ、カゼなどを引かないようにしましょう。過労やストレスにも注意が必要です。もしカゼを引いたら、睡眠や食事をしっかりとることを心がけましょう。



「治りにくいカゼだなあ」と思っていたら、ちくのう症になっちゃうかも。鼻詰が続いたら、咳払いが続くようなら、一度、耳鼻科を受診してみたいな。

次回、「いびき・睡眠時無呼吸症候群」のお話です。



Miyahara ENT Clinic 医療法人 南輝 *

みやはら耳鼻咽喉科

〒702-8023 岡山市南区南輝3-3-28

Tel.086-237-4133

南輝小学校・西100mを左折 P20台

『ご納得いただける診療・丁寧な診療・お待たせしない診療』を実践する、地域に根ざした耳鼻咽喉科医院です。

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:15	●	●	●	●	●	●
15:00~18:15	●	●	●	-	●	-



QRコード 携帯版HPがご覧いただけます。

●初めての方も順番予約できます●

休診日 日曜・祝日 木曜と土曜の午後

●詳しくは…

みやはら耳鼻科で検索!

ちくのう症はこうして治します

「ちくのう症」の治療方法

主な治療方法をご紹介します。



うみ膿を吸い取り、鼻の中をきれいにします。



◆バイ菌を殺す抗生物質の入った蒸気を鼻から吸い込んで治すネブライザー療法を行う。

- ◆原因となるバイ菌をやっつける薬を、1カ月くらい服用する。
- ◆腫れた粘膜がポリープになっている場合は、切除することもある。
- ◆根本的に治療するための、入院による手術を行う場合もある。

子どもと「ちくのう症」

子どもは、とくに「ちくのう症」にかかりやすいので注意しましょう!

- 子どもがかかりやすい理由
- 粘膜が敏感なため鼻水が出やすい
 - 鼻の穴が狭く、つまりやすい
 - 大人のように上手に鼻がかめない

子どもの鼻は、大人よりもかかりやすい構造をしています。よーく注意してあげてください。



鼻の上手なかみ方

小さな子どもは、大人が手助けしてあげましょう。



片方の鼻をおさえ、もう一方から息を吐き出す。 ※片方ずつさせましょう。



息を止める。



口から息を吸う。

◆注意◆ 鼻から息を出すときは、ゆっくりと出しましょう。一気に力を入れたり、両鼻をつまんでかむと、鼻水が耳へ送られて中耳炎の原因になります。